

第1学年国語科学習指導案

日 時 平成16年11月10日(水) 5校時
学 級 1年4組(男子19名 女子19名 計38名)
場 所 1年4組教室
授業者 教 諭 千 田 博 之

- 1 単元名 四 暮らしを見つめる
教材名 文章から課題を見つけよう 課題について調べよう・意見交換会をもとう
作品名 「魚を育てる森」 「『めぐる輪』の中で生きる」

2 単元について

(1) 教材観

本単元では、自分の身の回りの物事を客観的にとらえ、その上で自分はどうか考え、どのように対処していくかを模索することを意図している。そのために、具体的な問題を科学的・論理的に説明している二つの作品が位置づけられている。この二つの作品は、いずれも人間の暮らしと自然環境との関わりを具体的に論じている。ここで提起されているのは、解決された過去の問題ではなく、まさに「今、現実にある問題」なのである。二つの文章とも平明でわかりやすく、また事実や事例を取り上げ、そこから筆者の意見を述べているという形で文章構成が明確であり、取り上げられている事例もわかりやすいものなので、科学的・論理的な考え方を学ぶと同時に、自分の生活や行動と自然保護や環境保護との結びつきを実感としてとらえることができる。「今、現実にある問題」に対して考えを深め、具体的な解決の方法を探るような新しい視点を身に付けることができる。自分と社会がどのように結びついているのか、情報を理解するにとどまらず、そこからの発見や疑問を深め、確かめさせたい。

また、文章から課題を選び、それについて調べることは、自分お考えを深める上で大きな意味を持つ。資料等を調べる中で新たな発見に出会うこともあり、認識を深めたり、考えを改めたりすることもできる。さらに「環境を守る」という共通テーマについて意見文を書き、それを読み合うことによって、自分の考えを深めることが可能になる。

さらに、本単元では書き上げた意見文をもとにした意見交換会の活動も位置づけられている。「環境を守る」というテーマからは、さまざまな課題が生まれるであろうし、それについて意見交換をするということは話し合いの技術の向上を図るだけでなく、目的に沿って、自分の意見をも含めて冷静にその適合を判断するという客観的な視点を身に付けることにもつながる。つまり、「伝え合う力」を養う基礎となるものである。

(2) 生徒観

説明的な文章については、「二 自然の不思議をさぐる」で学習しているが、まとめりに内容をとらえる程度の学習にとどまり、文章を要約し、要旨をとらえる学習は行っていない。しかし、要約の学習は小学六年ですで行っており、本単元の説明文としての学習内容には特別戸惑いは感じられないと思われる。また、意見文を書くことについても、小学校で「事実と意見に分けて書く」ということ、1学期に「意見文の作成」も行っているため、これも容易に取り組めるものと思われる。ただし、意見交換会は学級会程度でしか行っておらず、基本的な話し合いの仕方やルールを理解しているにすぎない。だが、本単元では、「話すこと・聞くこと」の技術向上を求めるといよりも、意見交換によりお互いの考えを深めていく「場」であるということを重点としていきたい。

(3) 指導観

「文章から課題を見つける」については、二つの文章を読み、意見と事実を区別してとらえることと、論理の展開を理解することが、学習の中心となるが、両方の文章に共通するテーマを理解した上で、筆者の主張への共感を軸にして、課題設定へと進むようにしたい。同時に環境保護・自然保護の考え方の基本を筆者の主張におくだけでなく、生徒自身がその重要性を身近な生活の中から実感できるようにしたい。それを受けて「課題について調べよう」では、図書館やパソコン等に頼ることなく、ある程度の資料を提示して、情報過多による混乱を避けるよう、指導したい。そして、「意見交換会を持とう」では、他の人の意見を自分の考えを深める「資料」であるということを強調し、決して話し合いを一つの方に導くのではなく、さまざまな意見が出ることが重要であることを認識させながら、指導していきたいと考える。

3 単元の指導目標

自然や環境について、自分との関わりを考えながら文章を読み進めようとしたり、自分の課題に沿って積極的に資料を集め、それをもとに自分の考えをまとめることができる。 《関心・意欲・態度》
自分の考えを相手に理解してもらえようにはっきり話したり、話し手の意図を考えならきちんと聞き取るうとすることができる。 《話すこと・聞くこと》

積極的に資料を集め、その中から必要な材料を選び、伝えたい事実と自分の課題及び考えを明確にして文章にまとめることができる。
 《書くこと》
 文章における語句の意味を正確にとらえ、事実と意見などを読み分けて、展開を確かめながら要旨をとらえることができる。
 《読むこと》
 文章中の段落の役割や文と文との接続関係などを考え、事象や行為などを表す多用な語句について理解を深めることができる。
 《言語事項》

4 単元の指導計画・・・別紙

5 本時の指導

(1) 本時の目標

二つの作品から学んだことをもとに、身近な自然環境や環境保護に関する課題を設定することができる。

(2) 本時の展開

段階	時間	学 習 活 動	授業形態	指導上の留意点
導入	5分	1. 前時までの学習内容を確認する。 2. 本時の学習課題を確認する。	一斉 一斉	1. 「魚を育てる森」と「『めぐる輪』の中で生きる」の筆者の訴えをそれぞれ斉読する。
二つの作品から学んだことをもとに自分の課題を見つけよう				
展 開	42分	3. 二作品を学習しての感想発表を聞いてさらに追求できる部分の確認をする。 4. 課題設定の仕方について教師の説明を聞く。 5. 筆者の論から、自分の課題を見つけて学習プリントに記入する。 また、グループごとに分かれて課題設定について話し合う。 自分の調べたい課題は何か。 どの作品のどの文章から導いたのか。 どうしてその課題を選んだのか。 6. 設定した課題を発表したり、発表を聞いて、自分の課題と比較して課題を決定する。	個別 一 斉 個別 プリント グループ 一 斉	3. 前時までに書かせておいた二作品を学習しての感想から、さらに興味を持ったこと・疑問に思ったことについて触れているものを発表させる。 4. 追求するに足りる課題設定をさせるために設定の形式について説明する。その際疑問点等の質問も受ける。 5. 評価の方法...机間巡視 具体的評価規準 A 二つの文章の内容と自分の感想を参考にしながら、解決への願いがより強く現れているような課題を設定している B 二つの文章の内容と自分の感想を参考にしながら課題を設定している。 手立て 自分の生活と環境とがつながる場面・事例を考えさせるために教科書の文章や教師の雛型を参考にさせて調査可能な課題を設定させていく。 6. 発表を聞く中で、設定した課題の内容に付け加えたり、変えたりしても良いこととする。
終 末	3分	7. 振り返りのために本時の感想を書き、次時への意欲付けとする。	一 斉	7. 本時の学習を振り返り、次時の意欲につながるように感想を書かせる。

(3) 本時の評価

二つの作品の内容に即して、身近な自然環境や環境保護に関する自分の課題を設定することができたか。

単元四 暮らしを見つめる 全13時間

評価規準

〔関心・意欲・態度〕

人間が自然や環境に与える影響について関心を持ち、関連する資料を積極的に調べて、自分の考えをまとめようとしている。

〔能力/知識・理解・技能〕

文章の中の事実と意見、文章の構成や展開をとらえ、文脈に即して、筆者の考えや文章の要旨をとらえている。

(読 イ・ウ・エ・オ 言(1) ウ)

自分の課題に沿って必要な資料を集め、相手に理解してもらえるように工夫して文章にまとめている。

(書 ア・ウ・エ 読 カ)

目的やルールを意識して話し合いに参加し、自分の意見を積極的に発言したり、他の人の発言内容をきちんと受け止めたりしている。

(話・聞 ア・イ・ウ・エ)

	学習活動	指導目標	具体的評価規準		
			A 十分満足できる	B おおむね満足できる	手だてと支援
1時間	この単元のねらいについて教師の話聞き、単元扉やリード文から学習の見通しを持つ。	環境問題や自然保護に関する情報を積極的に発言し、本単元の学習内容を理解することができる。 《関心・意欲・態度》	学習以前に知っている知識や情報などを積極的に発言したり、どのようにして情報を得たかを発表している。	環境問題や自然保護に関する内容を事例を挙げて発表している。	環境や自然に関する言葉を連想させ、それがどの程度自分たちの身近な問題であるかについて関心を喚起させる。
1時間	「魚を育てる森」前半を読み、北海道襟裳岬の自然環境の変化や、森と海との関連について読み取る。	海と森の生物の関連や腐植土の役割について理解することができる。 《読むこと》	海と森の生物の関連や腐植土の役割について文章の事実だけでなく、自分の生活に関連づけて理解している。	海と森の生物の関連や腐植土の役割について文章の事実に基づいて理解している。	筆者の示した疑問点と、それを説明した事実とを確かめながら(疑問は青色・事実は赤色の傍線を施させるなどしながら)読ませる。
1時間	「魚を育てる森」後半を読み、海食物連鎖や森林再生の努力と現状について理解し、全体の構成や展開を確かめながら要旨をとらえる。	後半部分の内容について理解し、全文の要旨をまとめることができる。 《読むこと》	海食物連鎖や、森林再生の努力と現状について自分の生活に関連づけて理解し、全文を環境保護の在り方を示す部分とそのことに対する筆者の意見を落とさずに要旨をまとめている。	海食物連鎖や、森林再生の努力と現状について理解し、全文を筆者の意見と、それを支える事実とに分けて、要旨をまとめている。	事実と、筆者の意見とを確かめながら(事実は赤色・意見は黄色の傍線を施させるなどしながら)読ませ、全体の傍線を確かめさせながら、要旨をまとめさせる。

1時間	「『めぐる輪』の中で生きる」前半を読み、「めぐる輪」の内容をとらえる。	前半部分を読み、「めぐる輪」とは何か、という内容を把握することができる。 《読むこと》	前半部分から、筆者の考えや意見と事実とを区別し、「めぐる輪」とは何か、ということを理解している。	前半部分から、筆者の考えや意見と事実とを列挙し、「めぐる輪」とは何か、ということを理解している。	事実と、筆者の意見とを確かめながら（事実は赤色・意見は黄色の傍線を施させるなどしながら）読ませる。
1時間	「『めぐる輪』の中で生きる」後半を読み、地域規模での「めぐる輪」の取り組みをとらえ、構成や展開を確かめながら要旨をとらえる。	後半部分を読み、日本各地の例を把握したり、最終段落をもとに全文の要旨をまとめることができる。 《読むこと》	後半部分から、日本各地の例の内容を理解し、自分の身近な生活に関連づけた取り組みを挙げることができる。また、要旨をまとめる段階では筆者の言葉を受け止め、自分の生活を見直すような感想も付け加えている。	後半部分から、日本各地の例の内容を理解し、最終段落の内容を中心に要旨をまとめている。	最終段落での筆者の訴えから、自分の身の回りでも環境に対する取り組みが行われていないかを考えさせる。

1時間 (本時)	2つの作品で学習したことをもとに、自然保護や環境保護に関する自分の課題を見つける。	2つの作品の意見を参考にし、課題を設定することができる。 《読むこと》	教科書以外の環境問題を扱った文章についても取材し、課題設定している。	2つの作品の筆者の意見や、要旨を参考にし課題を設定している。	自分の生活と環境につながる場面・事例を考えさせる中で、追求可能な課題を設定させる。
-------------	---	--	------------------------------------	--------------------------------	---

0.5時間	教科書を読んで、自分の課題に沿って資料を探したり、調べたことをもとに意見文を書き上げるまでの流れを確認する。	調べる方法や意見文の様式について理解し、書き上げるまでの時間配分を考慮することができる。 《関心・意欲・態度》	以前に学習した2作品やそれ以前の説明文教材にまで取材をし、意見文の様式を考えたりし、書き上げるための適切な時間配分を構想している。	教科書やワークを参考にし意見文の様式を理解し、書き上げるための適切な時間配分を構想している。	資料については教師が提示したものの中から選べるようにして、調べる時間を短く設定できるようにする。
1.5時間	自分の課題に沿って、資料やインターネットなどから情報を集める。	教師が提示した資料やインターネットWebサイトを使って資料を集め、自分の意見文の参考にすることができる。 《書くこと》	教師が提示した資料だけでなく、持参したものなどを広く取材して、資料を集めている。	教師が提示した資料を使ったり、インターネットWebサイトで取材して、資料を集めている。	教師が提示した資料を必要に応じて選ばせる。あるいは一緒に選ぶ。

2時間	集めた情報を整理し、事実と意見を区別して意見文にまとめる。	調べてわかった事実と自分の意見を区別して意見文を書くことができる。 《書くこと》	調べてわかった事実と自分の意見とを区別し、文章構成を工夫しながら意見文を書いている。	調べてわかった事実と自分の意見とを区別して意見文を書いている。	自分の意見を支える事実をきちんと挙げながら意見文を書くよう指導する。
0.5時間	教科書を読んで、意見文をもとにグループでの話し合いを行うための話し合いの基本や話し合いの流れを確認する。	意見交換会の目的や方法を理解し、話し合いの基本について理解することができる。 《関心・意欲・態度》	意見交換会の流れを理解して、積極的に役割分担を行って話し合いを進めていこうと考えている。	教科書や教師の説明によって意見交換会の方法を理解し、話し合いの流れに沿って進めていこうと考えている。	発表・発言の仕方や聞き取る時の注意をさらに行い、話し合いに参加していこうとする意欲を喚起させる。
1.5時間	選んだ課題ごとにグループを作り、司会者・記録係などの役割を決めて、話し合いを持つ。	事実の扱い方、意見の組み立て方に留意して発言することができる。 《話すこと・聞くこと》	話し合いの意義を理解し、事実の扱い方、意見の組み立て方に留意して発言をしている。	事実の扱い方、意見の組み立て方に留意して発言をしている。	発言の中の主張の部分が、どのような事実によって支えられているのかということを教師が確認しながら発言させる。
1時間	グループで話し合った内容を全体に報告し、意見交換を通して自分の考えを深める。	話し合いの中で出された意見が、どのように展開されたのかを報告することができる。 《話すこと・聞くこと》 話し合いの報告を聞いてメモをし、疑問点等を質問することができる。 《話すこと・聞くこと》	話し合いの結論、それに至る過程など、ポイントを示しながら報告している。 自分とは異なる立場からの報告に対して、どのような違いがあるかということを詳しく知るための質問をしている。	話し合いの中で出された意見を大まかにグループ分けし、どのように話し合いが展開されたのかを報告している。 メモをもとに疑問に思ったことを質問している。	手元のメモを教師がコピーして他の生徒に配布し、ポイントとなる点を挙げさせながら報告させる。 話し合いの中で、気になる言葉をメモさせ、その中で、聞いてみたいことがあったら、質問の時間を設ける。